

元治元年十二月一日より元治元年十二月三日まで

P8311205 left

十二月 月番

朔日辰 雨達・晨

月並御礼有し、出 殿御礼に罷出る、此甲州へ高畑(久)より托せし□小時計・二を渡す、菊池(豫)より月番相鍵

添贈り来る、須崎より長舌蛤串□其外小品贈り越し、小品を酬(むく)う

松盛斎稽古に来りとう女□入

せしめ束脩を遣せし旨、細谷(秀)来る、近く婚嫁ありし趣に付、賀品一方を遣す、□窪へ昨夕の返書義

外用事有し休左衛門を遣す

二日巳 雨午下止

宅調、保三来り、金駄帰り土産品を贈らる、柳亭稽古に来る、泥濘に組して一泊、木村(甲)へ

鍬尻□を添へ

菓糖・少許を遣す酬品あり

三日午 晴漸陰

(内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。